

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400112		
法人名	社会福祉法人多伎の郷		
事業所名	グループホームはなんぼの里(やまびこ)		
所在地	島根県出雲市多伎町口田儀750番地		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成28年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、一人ひとりのその人らしさを大切にしながら残存能力を引き出し、出来たことは一緒に喜び笑顔と自信を持って過ごせるよう支援している。また、秋には地元の行事に参加したり、ボランティアの方に来訪もあり、地域の方々とも交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田儀川とJR山陰線が交差し、日本海が望める国道沿いの風光明媚な地に開設9年目を迎えるホームはある。ご夫婦で入居されている利用者さんは、ホームでの暮らしについて、「毎日楽しく過ごしていますよ。」と笑顔で話された。新しい洋服を買いに大型スーパーまで行ったり、中庭の芝生の上で日光浴しながらお茶会を楽しんだり、散歩したりなど日常的に活動を支援している。重度化した利用者さんには、医療福祉の協力で看取りもする。防災訓練は、海岸に近いことから、出雲市沖で地震発生し18分後に津波が到達することを想定した訓練も含めて年3回行っている。認知症の方へのケアについての講習を地域住民にも開催するなど、社会福祉法人の理念である地域に密着した福祉にホームも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の出来る事出来ない事を把握して残存能力を活かして笑顔と自信につなげている。	ホームの理念「家庭により近い・その人らしさ・安心・力の発揮」は、目に付くようにホームの随所に掲げられており、ホーム長、職員は利用者さんの笑顔を理念の実践の証ととらえ、明るいホームを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋の多伎地区の祭りでは毎年花折りから参加し当日は完成したはなばが施設を回って下さり利用者様も見学出来る様にして下さっている。保育園や地域の行事に参加させてもらっている。	法人母体が、地域に根を張り、住民の信頼を得ていることから、地域との付き合いは良好であり、行事参加だけでなく、野菜の差し入れや友愛訪問など、日常的に、積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや地域ボランティアの方に施設に来ていただき利用者のここでの生活を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。要望や意見は毎月の詰所会議で報告し、改善策を考え職員で共有し意識の統一に努めている。	会議では、家族代表からの意見も活発に出されており、利用者さんがホームでの暮らしを豊かに過ごせるようにアイデアを提案している。職員の欠員が発生した時も災害時の体制などに影響がでないようにと協力の申し出もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適時に市担当部署を訪問し困ったことなどを協議、検討しその都度問題解決するなどしている。サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。	市の担当職員とは顔の見える関係を築いており、最近では、経済的な問題で入居が難しい方について相談し、解決を見るなど、ホームの取り組みに協力をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止、身体拘束廃止に関する事業所内研修を実施している。毎月のユニット会議で具体的な行為について話し合っている。玄関の施錠については利用者の安全を確保したうえで解放に努めている。	コミュニケーションの中での言葉使いや人間関係のあり方が、利用者の尊厳を傷つけたり、自由を奪うことがないように、新人職員には研修を行い、また、ベテラン職員も常に意識できるようスーパービジョンを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニット会議で1ヶ月の振り返りを行っている。自分自身の行動や見かけた行為等虐待につながりそうなことを話しあい気持ちを示すことでストレスの軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関する研修は事業所内で行っているが今後も外部の研修に参加し施設内で研修を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって説明している。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制等について詳しく説明し同意を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には家庭通信や面会時に随時に状況をお知らせしている。年に2回家族会を設け今の状況や家族様の意見、要望を伺っている。その頂いた意見や要望は職員で話し合い改善に努めている。	家族の面会は頻繁で、職員ともいろいろなことを話し合う機会が多い。そこから、意見や提案もあり、ホームとして柔軟に個別に対応している。面会に来られない家族については、家庭通信や電話などで、連絡を密にして、意見などを聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や詰所会議で意見を聞くようにしている。管理者は職員の意見や要望を反映改善するよう努めている。	職員は、意見を言いやすい雰囲気であり、出された意見は採用して、まずやってみて、評価し合い、ケアや運営の改善、向上に向けて取り組んでいる。職員一人一人の個性や力量が活かされることで利用者さんの豊かな暮らしを支えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員登用制度と資格所得支援や取得後の昇給等により向上心を持って働ける様努めている。代表者は個々の職員の話聴き状況を把握するとともに産業医として健康診断に基づいて指導、アドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧し、研修に参加してもらえる様努めている。研修報告を職員が目を通して詰所会議で勉強会をして職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し質の向上に努めている。グループホーム間での交流の機会をもてるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さまに寄り添い、訴えを傾聴し不安や心配事を和らげるように努めている。日々の関わりから信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に利用者様の状況を伝え家族様の思い、要望を聴いている。面会時に状況をその都度伝えて信頼関係に繋げていける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の様子や家族様の要望をよく聴き、その人に合った支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存能力を活かし自信と笑顔をもって生活していただける様に支援している。個人の得意な事、不得意な事を観察し得意な事を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人様の状況を伝え、できる範囲での協力をお願いしている。遠方の家族様や面会の少ない家族様には家庭通信で状況をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアで来苑された方と活動後に茶話会を行っている。会話の中で知りえた情報でよく行っていた所等を聴き機会をみて出かけている。家族様の協力を得て外泊などしている。	入居の際には、自宅訪問をし、利用者さんの生活エリアを把握している。ホームからいつでも自宅周辺に行ったり、家での法事など家族が集う場にも職員がケアのために同行して付き添うなど今までの関係が保たれるよう援助している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士の関わりに繋げている。一人ひとりを把握し孤立しない様に職員は活動の輪を広げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族の希望がないため実施していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に寄り添い、話を聴き思いを確認している。困難な場合は行動や表情を観察して思いをくみ取っている。	海の近くで小田漁港にドライブしたり、また、病気がある利用者さんにも、他の利用者さんとの関係をサポートして、共に仲良く生きがいのある暮らしを作っていくホームを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、生活環境、職歴等把握し、利用者様の行動、言動を理解するよう努めている。個々に合った支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、一日楽しく過ごして頂ける様努めている。体操や活動に参加してもらい心身の維持に努めている。役割を持つ事で居場所を作ってもらえるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の思いや表情を観察し、家族の要望も反映している。毎月のユニット会議で話し合い対応を検討している。	認知症の方は、言葉によるコミュニケーションが難しい場合が多い。家族からの話には、その方の生活スタイルや思いがくみ取れる。職員はそれらや、日々のホームでの様子から、言葉以外の情報も得て、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートで気付いた点等を記入し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の状況に応じて通院、往診等必要な支援は柔軟に対応している。同法人内の他の事業所との連携も図り、多機能を活かした支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容の方が訪問して下さる。家族様が来院し散髪される方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望するかかりつけ医になっている。ファックス等で状況を報告し、適切な医療が受けられるようにしている。体調に応じて往診をお願いしている。	利用者さんは、希望する病院を受診することが出来る。家族との連絡も日常的に行われており、健康面や医療面、安全面についても安心度が高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルを測定し、体調の変化、表情の変化等観察し気付いたことを看護職員に報告し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報を医療機関に提供している。家族様や医療機関と連絡を取り情報収集しながら退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」を作成し、家族様に説明し同意を得ている。かかりつけ医と連携を取りながら終末期の対応、看取りを行っている。	ホームが終の棲家となれるような取り組みが行われている。看取りについての詳細なマニュアルを作成し、病気や怪我など、予測はつきにくい、利用者毎の状況に応じて、柔軟な対応が可能である。看護師や協力医など法人母体の協力体制が大きな支えになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て普通救命講習や応急手当普及員養成講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、自衛消防訓練(総合訓練)を行っている。防災訓練マニュアルを作成し運営推進委員の方々と共に防災訓練を行っている。	防災訓練は、海岸に近いことから、出雲市沖で地震発生し18分後に津波が到達することを想定した訓練を含めて年3回行っている。法人、地域住民の協力の下で、非常災害時の対策に熱心に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応、言葉遣い等毎月のユニット会議で自分の言葉、他職員の言葉等気になったことを話しあって今後活かしている。	ドアはノックや声をかけて入室する、排泄の声かけは、周りにそれと悟られることのないよう気をつけるなど、基本的なことから、楽しい会話や、レクレーション時の話し方でも、尊厳を損なうことのないように丁寧な言葉遣いに心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者様に合わせて声掛けし、思いを言葉で表現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせて、体調等を見ながら柔軟に対応している。買い物やドライブの希望に対して適宜対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのマフラー、帽子等を使用してもらっている。整容の声掛けし、出来ない所を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事に合わせて、好みの献立を聴き、調理している。毎日の食事の準備、片付けを役割として手伝って貰っている。	調査の日は、3人の利用者さんの誕生祝いのための祝い膳。サンドイッチ、お赤飯などをテーブルに座って手作りしていた。代表の男性利用者さんも演説をされ、流ちょうに話されていた。食事は会話の弾む和やかでゆったりとしたものだった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量、水分量を把握し、好みの物を補食等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所で歯磨き、うがいを行っている。夜間義歯洗浄も行っている。食事前に口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様に合った排泄介助を行動や表情を観察しながら適宜行っている。トイレでの排泄ができるよう個々に合わせて紙パンツ、パット等検討をしている。	入居後、2週間から1ヶ月程度で、排泄のパターンは把握できるという。その後は、トイレでの排泄を誘導している。状態によってはおむつやポータブルトイレを使用することもある。ホームのトイレは清潔で、排泄物の匂いはしない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物を提供し水分量を増やすよう心がけている。体操等で身体も動かしてもらい水分を進めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望の時間帯に応えられるよう支援している。	入浴は夕方行われており、浴後寝間着に着替える方もいる。動作の能力に応じて職員は介助しており、一人一人入るなど、プライバシーも護られている。楽しいお風呂になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、利用者様の趣味や色々な活動などをしてもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを活用し確認できるようになっている。またくすりのケースに個数が書いてあり確認しながら入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	姿と気持ちシートを記入し利用者様一人ひとりの楽しみ、思い、役割等を職員間で共有し支援に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じてドライブや買い物に出かける様になっている。併設しているデイサービスの行事にも参加している。	自然豊かなホーム周辺の散歩、食材や日用品、時には好みの洋服や趣味の品物などの買い物、観光やドライブなど、利用者さんが楽しめるように日常的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布は預かっているが外出時に介助しながらお金を渡し支払いをして貰ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は見守り、介助しながら電話で話をしてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール等共用のスペースは季節に応じて模様替えをしたり季節を感じていただける様努めている。	ホーム全体に木をふんだんに使用した和洋折衷の建築であり、落ち着いた雰囲気がある。明るく清潔なホールの壁や棚には、季節の花や、利用者さんが楽しんで取り組んだ作品が飾られており、我が家、我がホームとしてのぬくもりがある。テラスに続く広大な芝生の庭でひなたぼっこやお茶会、軽運動をする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファなど置き利用者様同士座って談笑をしたり、居心地の良い空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様からテレビ等、利用者様にとっての馴染みの物をもっていただき落ち着いた環境が作れるようにしている。	床も壁にも木が使われ、落ち着いた室内は、プライベートにくつろぎ、自分の時間を楽しめよう、タンスや机・椅子に小物や壁飾りがされている。ひとりひとりの個性を尊重したしつらえになっている。案内して下さった利用者さんも個室を自分の部屋として、なじんでおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じて環境整備を行い安全に生活が送れるようにしている。		